

ルヴィソル・フェオゼム・ヴァーティソルおよび石灰質カンピソルなどの肥沃度が高い土地帯では、灌漑施設などが完備し水の管理が十分に行われれば素晴らしい生産力を発揮するであろう。また、それとともにフェラルソル・アクリソルおよびアレソルなどの肥沃度の低い土地帯でも、国土保全や環境保全などを十分に考慮にいれつつ牧畜や林業などを積極的に進めていくことも大事である。そのためには、各地域の立地環境条件に基づいた全国規模の土地利用区分の確立が必要不可欠であると思われる。

〔参考文献〕 1) Dalal-Clayton, D.B. et al. (1985) : Technical Guide No. 15-A Geomorphic Legend for Zambia. Department of Agriculture, Zambia 2) Government of the Federation of Rhodesia and Nyasaland (1961) : Geological Map of the Federation of Rhodesia and Nyasaland. Federal Government Printer, Salisbury, Rhodesia and Nyasaland 3) —— (1960) : Vegetation Map of the Federation of Rhodesia and Nyasaland. ibid 4) The Forest Department (1986) : The Zambezi Teak Forests. Ndola, Zambia 5) Soil Survey Unit (1983) : Soil Map of Zambia. Mt. Makulu, Zambia

新刊紹介

◎グリリシディア・セピウム：取扱いと改良 (*Gliricidia sepium* (Jacq.) Walp. : Management and Improvement. Proceedings of a Workshop Held in Turrialba, Costa Rica, June 21-27, 1987, WITHINGTON, D., N. GLOVER & J.L. BREWBAKER, ed., v + 255 pp., 1987, A special publication (87-01) of the NFTA, P.O. Box 680, Waimanalo, Hawaii 96795 USA, 14 US\$)

G. sepium は中米原産のマメ科（ソラマメ亜科）の樹種である。madre (de) cacao, mother of cocoa, Mexican lilac などとよばれるが、フィリピンではとくに Kakauati (カカワテ) とよぶ。発根性がごく高く、やせ地にも育ち、容易に萌芽更新することから、熱帯各地で燃材として利用されている（発熱量：4,900kcal/kg）。ただ幹が枝分れして叢生するため、造林樹種というより緑化樹種といったほうがよいが、最近いわゆる多目的樹種として注目されている。この樹種の取扱いと改良を主題に、昨年コスタリカで、21か国からの49名が参加して開かれたワークショップの論文集である。38編の論文は、①各地の経験、② alley farming、③ アグロフォレストリー、④ いけ垣と木材生産、⑤ 遺伝的改良、⑥ 飼料生産とその利用の6区分で収録されており、巻末には、311編の文献と、期間中に構成された5ワーキンググループ（上記②、③、⑤、⑥とバイオマス生産）の報告—既往の知見の要約と報告が添えられている。（浅川澄彦）